

一薯蕷、河首烏、草薢、桔梗、蒟蒻、葛、蕨等ハ、五穀ニも不劣、夫食ニ相成候ものニ而、自山林原等ニ生じ、木立の障ニも不相成者ニ候間、百姓持山或者御林等の内江も、種を蒔付候様可被申敷候、○下略

天明八申年七月十日申渡書付

支配所村役人世話爲致、田并小溝等に有之候田螺子供ニ拾ひとらせ、村役人方江取集メ、湯をかけ干シ上貯置候得者、飢を凌ぎ候筋ニも相成候間、右之段村方江も能々申含、農業手透之節、干シ方等も世話爲致、貯候様申渡尤手代共江も申付、實意ニ村方江申含取計候様可被致候、拾集候子供江手當をも遣し候而宜キ筋も候ハ、聊之事ニ而可有之事故、各吟味勘辨之上可被取計候、勿論農業いそがしき節者難相成事故、此節より早々申渡取計可被申候、

右之通被仰渡奉畏候、早便を以、早速銘々支配所江申遣、被仰渡之趣取計、其段追而御勘定所江御届申上候様可仕候、依之御請申上候、以上、

申七月十日

天明八申年九月九日

以廻狀致啓上候、然者拙者儀、今日御勘定所江罷出候處、豊田金右衛門申聞候者、先達而村々貯穀之儀御談申候處、定而此節者追々貯置候事と被存候、夫ニ付唐茄者切干ニいたし貯候得者、夫食ニ宜もの、由本多彈正大弼殿御沙汰有之候間、備後守殿被仰聞、右之趣寄々御同役中江御談申候様、金右衛門申聞候間、御達申候乍御世話廻狀御順達、留か御返却可被成候、以上、

申九月九日

辻六郎左衛門

〔農喻〕第八　かてをたくはえし人の事　ある所に米穀は云におよばず、凡くひものになるべきほどの色品をたくはひ、何によらず心を用ふる事のくはしき人ありけり、毎年秋の末に至り、里芋を刈取るせつ、莖をば皆ほしあげてたくはひ、又きりすてし芋の葉をも遺さず取集めおき、よ